

ガウディ没後100周年

の意義

- 聖家族として生きること -

講師：阿部 仲麻呂（日本カトリック神学院教授）

日時：4/23, 5/28, 6/25, 7/16

※木曜日 15:30-17:00

※会場とZoom(見逃し配信あり)の併用講座です。

※受講料:1回 1,200円 学生は無料(要 学生証提示)

※テキストはこちらで準備いたします。



アントニ・ガウディ・イ・コルネット

◆講師よりメッセージ

2026年は、スペインのカタルーニャ地方の建築家アントニ・ガウディ・イ・コルネット(Antoni Gaudí i Cornet; 1852-1926年)の没後100周年記念を祝うひとときです。ガウディは存命中に「神の建築家」と称されていたが、教皇フランシスコによる指示で列聖省が動き、2025年4月14日にはカトリック教会から「尊者」として認定され(その翌週の4月21日に教皇は帰天した)、徳の高い、すぐれた生き方(英雄的な徳)が評価されるとともに列福列聖運動が始まっています。ガウディの生き方をながめることで、私たちも新鮮な信仰を取り戻して、生き方が深まるかもしれません。

特に、1882年から今日に至るまで144年間の長きにわたって建設がつづいているバルセロナのサグラダ・ファミリア大聖堂(聖家族贖罪聖堂)全体がかもしだす聖書の読み解きと信仰の伝承の具体化をたどることで、私たちも地球というふるさとにおいて、神のもとで兄弟姉妹となる全人類の動向を視野にいれつつも協力して補い合う新たな聖家族になることができるはずです。

本講座では「ガウディの生い立ち」・「ガウディの学び」・「ガウディの建築」・「ガウディの信仰」を順にたどることで、聖家族になることの尊い意味について紹介します。(裏面につづく)

- 【日程】
- ・4月23日 ガウディの生い立ち(カタルーニャの独自性と苦難)
 - ・5月28日 ガウディの学び(自然や諸文化からのめぐみ)
 - ・6月25日 ガウディの建築(一途で愚直な生き方の具体化)
 - ・7月16日 ガウディの信仰(聖家族を目指す共同体づくり)

公益財団法人真生会館

〒160-0016 東京都新宿区信濃町33番地4 (JR信濃町駅下車徒歩1分)

Tel: (03)-3351-7121 URL: <https://www.catholic-shinseikaikan.or.jp>

【会場受講】「ガウディ没後100周年の意義」を申し込みます。

ご希望の日程を○で囲んでください。(全日程 4/23、5/28、6/25、7/16)

お名前(ふりがな)： _____

ご連絡先 TEL： _____

※前期受講された方へ メールアドレスを変更された方のみご記入ください。

E-MAIL: _____

【Zoom受講】

お支払い方法はクレジットカードやPayPal、コンビニ払い他。30日間何度でもご視聴頂けます。HPよりお申し込みください。⇒





ガウディには幼い頃からリュウマチで苦しみました。手足の関節の炎症です。膝や足首や両肩や腕の関節が固くなって、動くたび激しい痛みが続きます。それで彼は小学校にも通えません。銅細工職人の父親が家でガウディを教育しました。少年は毎日勉強を終えると家の庭や近所の野原に出向いて座ったまま過ごしました。ガウディは毎日、草や花や大きな樹や虫や空の雲の流れを観察しました。こうして自然環境の尊さを学びました。あらゆる生きものには曲線が見えました。自然界には直線状態がありません。しかしすべては黄金比で美しいバランスを保ちます。人間の智慧をはるかに超えた創造主がいることにガウディは目覚め、神に祈るようになりました。建築家になってからのガウディは幼い頃に発見した自然界の曲線の不思議さを建築に採り入れました。彼の建築は全部曲線で構成されます。ガウディは自然界の形を真似して、自分の建築を神の創造のわざに重ねました。

しかし、現在の建築物は全部四角い箱型です。人工的な直線で構成されます。すべての長さや重さが均質化され、機材を揃えるのが便利になり、運搬も楽です。しかも現場の職人も作業しやすくなります。皆さんの教室も直線で構成されています。しかし人工的な直線状態は自然界の曲線の美しさとは真逆です。神による創造のわざに沿わない人間の御都合主義の企画にはめこまれています。それで私たちは現在の建築様式の建物で過ごすことそのもので神に反逆して生きており、不自然な環境を当たり前だと勘違いします。自然の豊かさを無視して、狭い了見で生きているとストレスも生じます。大勢の人々が夏に山や海にキャンプのため出かけるのは、もしかしたら自然界の心休まる環境に浸るためなのかもしれません。ガウディのサグラダ・ファミリア大聖堂の内部を見ると樹々がうっそうと茂る森のように感じます。森のなかを散歩して自然界の曲線の美しさに感動して創造主である神をほめたたえるふるさとは、彼が理想とした祈りの家だったのです。

皆様のご参加をお待ちしております。